

BYOD&探究通信

vol.08

生成AI × LET



Guidance for generative AI in education and research



先生インタビュー LET担当 寄田麻由子先生



Q. 生成AIを活用してみて、学習者の反応はどうでしたか？

ChatGPTを使用した感想を生徒に聞いてみると、「細かく指示すれば自分に合ったレベルの英語を使用してくれたり、なぜ間違っているかを文法的に説明してくれるのでとても使いやすい」という意見が非常に多かったです。また誤情報について十分理解させてから授業を進めることで、生徒たちはAIが出すデータの情報元に注意を向けることができるようになりました。

Q. 自宅で生成AIを活用して英語を学習する際のアドバイスをお願いします！

まずは自分の力で英語を書いたり話したりすることが最も重要です。その上でAIに添削してもらい、違う表現やよりよい表現を模索してほしいです。そして、学んだことをアウトプットしてください。AIを学習のパートナーとして、どんどん発信できる表現力を持つてほしいです。

2学期後半から、高校1年生LET（英語の中でも特に英語の活用に力を入れる科目）の授業では生成AIを活用したディベートの学習をしています。今回は、その様子と担当教員のインタビューをお届けします。

10月頃

英語ディベートで生成AIを活用するにあたり、寄田先生とラケル先生から生成AIを適切に使うための注意点について説明がありました。

注意点1.生成AIのもつ Bias（偏見）に注意！

生成AIはGlobal Northいわゆる先進国で開発されたもの。元データもそれらの国ものが多いので、元のデータに偏見が混ざっている場合があります。

注意点2. Hallucinations（事実無根のウソ）に注意！

生成AIは正しい答えを答えるものではなく、「それっぽい文章を生成する」もの。存在しない言葉について聞くと、さもその言葉が存在するかのように流暢に教えてくれます。これを防ぐには、プロンプト（命令）にそもそも誤情報がないか気を付けることや、情報ソースを明らかにするように指示をするといいようです。

注意点3.Higher Thinking（より深い思考）をするのはやはり人間！

「転石苔生さず」という諺の意味を生成AIに聞くと、その意味を教えてくれますが、実はよく調べてみると西洋と東洋でその意味は180°異なります。生成AIで意味を調べてただ満足するのではなく、より深く考えることは大切です。

11月頃～現在

ディベートのお題は「英語学習に生成AIを活用することについての是非」。そのために学習者はNotebookLMという生成AIを活用して、文部科学省とユネスコが出している生成AI活用ガイドラインを読み解いていきます。NotebookLMは情報ソースを限って文章生成ができるAIです。

ディベートの内容が決まったら、生成AI相手にAttackなどの練習をしていきます。左図は生成AIに自分の意見の反論をさせている様子。その際、プロンプトに「CEFER A2レベルの英語を使用すること」や「入力された英語を正しい英語に毎回直すこと」など適切に学習するための制約条件をかけています。

いよいよ3学期はディベートの本番です！楽しみですね。

Q. 生成AIを活用してみて、学習者の反応はどうでしたか？

ChatGPTを使用した感想を生徒に聞いてみると、「細かく指示すれば自分に合ったレベルの英語を使用してくれたり、なぜ間違っているかを文法的に説明してくれるのでとても使いやすい」という意見が非常に多かったです。また誤情報について十分理解させてから授業を進めることで、生徒たちはAIが出すデータの情報元に注意を向けるようになりました。

Q. 自宅で生成AIを活用して英語を学習する際のアドバイスをお願いします！

まずは自分の力で英語を書いたり話したりすることが最も重要です。その上でAIに添削してもらい、違う表現やよりよい表現を模索してほしいです。そして、学んだことをアウトプットしてください。AIを学習のパートナーとして、どんどん発信できる表現力を持つてほしいです。